ぼくは、人間が足をつかえていいなと思った。なぜなら羽なら、飛べるけれどものをもったり走ったりができないなる。なにより、手のぶん明がないと思うからだ。この文明とは、両手や両足羽があれば、車をのる煙がないので人間が手足があっていいなと思った。ぼくは、ふと思ったぼくは二歩ずつの足をつかったのがきれいなミーヤキャットのようにまわりを見わたしてきを早くに見つけるために二本足になったのだと思った。そして手は、その巻かるときにつかうやりやすいようをもつために なったのだと思う。

ぼくは、他の動物にはない人間の特ちょうについて聞いてみた。母は、目があって目を見ただけで相手の感情を察することができるのは、人間だけだと聞いたことがあるそうです。実際に口をとがらせると黒目がまんなかにこていることはたしかに目で感情をキャッチすることは他の動物にはできないと思った。こちらがみた感情をつたえることはきわめてすばらしい

ぼくはこの話を読んで、人間は、手足がなければ、ちがいないと思いました。ぼくに手がなかったらもっとたいへんなので少しだけ安心できました。ぼくは、これ以上うでや足をふやしたくありません。なぜなら、体をあらたにするのが大変だからです。なのでぼくはふだんのくらしでまわりが、手と足にあることがありがたい。